

## ジフテリア・破傷風(第2期)予防接種を受けましょう

予防接種法により、定期のジフテリア・破傷風(第2期)予防接種を実施します。

(注意：母子健康手帳にはDT第2期の記載欄がない場合があります。)

乳幼児のジフテリア百日せき破傷風(DPT)1期またはジフテリア百日せき破傷風不活化ポリオ(DPT-IPV)1期予防接種(初回3回、追加1回)で基礎免疫を付け、今回の2期予防接種で生涯にわたっての免疫をつくります。

対象のお子さんと保護者の方は下記要領・説明書をよく読んで13歳の誕生日の前日までに予防接種を受けましょう。

### 記

- ◆対象者 **11歳以上13歳未満(13歳誕生日前日まで)**で、**幼児期の三種混合、四種混合または二種混合の第1期初回と追加(生後3か月から7歳6か月までの予防接種)をあわせて3回以上接種している人**  
※今までに免疫をつけていない人が今回1回だけ接種してもほとんど効果はありません。  
今回接種を希望される場合は、かかりつけ医師と相談のうえ、追加接種により免疫をつけるようにしましょう。
- ◆実施方法 **個別接種：市内医療機関で接種を受けます。(必ず保護者同伴で接種を受けます。)**  
※ 電話などで予約問い合わせ等をしてから接種を受けましょう。  
※ 実施医療機関は毎年4月1日号広報または、今治市健康推進課ホームページに掲載していますのでご覧ください。  
[http://www.city.imabari.ehime.jp/kenkou/kodomo\\_yoboseshu/](http://www.city.imabari.ehime.jp/kenkou/kodomo_yoboseshu/)
- ◆料 金 無料
- ◆持 参 品 この**説明書と予診票・母子健康手帳**(乳幼児期の接種歴を確認します。手帳を紛失した方等で接種歴が分からない方は健康推進課までお問い合わせください。)**・印鑑(訂正用)**

#### 1 この予防接種を受けることができないお子さん

- ◎ 明らかに発熱(通常37.5℃以上をいいます。)をしているお子さん
- ◎ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
- ◎ 受ける予防接種の接種液に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかなお子さん
- ◎ 予防接種を受けようとする病気に既にかかったことがあるお子さん、又は現在かかっているお子さん
- ◎ その他医師が不相当と認めるお子さん

#### 2 接種前の注意

- (1) 接種前1週間くらいの間にかぜ、発熱等体調に異常を認めたお子さんは、できるだけ接種当日かかりつけの医師に相談して、予防接種を受けていかどうか確認しましょう。
- (2) 接種をしてはいけない者に該当するかどうかわからないお子さんや、その他疾患があるお子さんは、予防接種が受けられるかどうか事前に健康診断を受けましょう。
- (3) 予診票は責任をもって保護者がボールペンまたはインクで記入し、訂正したところには捺印をしてください。また、**体温欄は医療機関で測ったものを記入しますので、前もって記入しないようにしてください。**

#### 3 接種後の注意

- (1) 接種当日はいつもどおりの生活ができますが、激しい運動は避けましょう。
- (2) 入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすったりせず、清潔に保ってください。
- (3) 予防接種は伝染病にかからない力(免疫)を人につける反面、ワクチン(病原体を殺したり弱めたりした物質)を体に接種するため、接種部位が赤くなったり、軽いだるさ、発熱等をみる場合がありますが、これはいずれも2、3日中には特別の処置をしなくてもしだいになくなります。しかし、まれに**重い副反応**がおきることがあります。高熱、おうと、けいれん、その他**異常な症状**があるときは、すみやかに医師の診断を受けたのち、**健康推進課(Tel 0898-36-1533)までご連絡ください。**

#### ◆予防接種による健康被害救済制度について

○定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

○健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

○ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、

#### 【 問合せ先 】

今治市健康推進課(今治中央保健センター)

TEL 0898-36-1533

FAX 0898-32-5511

## ジフテリア・破傷風(第2期)予防接種 説明書

### (1) DPT (ジフテリア・百日せき・破傷風) 三種混合ワクチン・DPT-IPV (ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ) 四種混合ワクチン・DT (ジフテリア・破傷風) 二種混合ワクチン

1期として初回接種3回(20日以上の間隔をおく)、追加接種は1回(初回接種3回終了後6月以上の間隔をおく)行います。また、2期として11歳時にDT(ジフテリア・破傷風)二種混合ワクチンで接種を1回行います。回数が多いので、接種もれに注意しましょう。

確実に免疫をつくるには、決められたとおりに接種を受けることが大切ですが、万一間隔があいてしまった場合には、市町村とかかりつけの医師にご相談ください。

### (2) DT ワクチンの副反応

注射部位の発赤・腫脹(はれ)、硬結(しこり)などの局所反応が主で、7日目までに約31.1%認められます。なお、DPT ワクチン接種後の副反応と同様に、硬結(しこり)は少しずつ小さくなりますが、数カ月残ることがあります。

通常高熱は出ませんが、接種後24時間以内に37.5℃以上になった子が0.1%あります。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師にご相談ください。(厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より)

### (3) 病気の説明

#### (ア) ジフテリア (Diphtheria)

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。

1981年にジフテリア・百日せき・破傷風(DPT)ワクチンが導入され、現在では患者発生数は年間0~1名程度ですが、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ず、保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

感染は主にのどですが、鼻にも感染します。

症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。

発病2~3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがありますので注意が必要です。

#### (イ) 百日せき (Pertussis)

百日せき菌の飛沫感染で起こります。

1948年から百日せきワクチンの接種がはじまって以来、患者数は減少してきています。

百日せきは、普通のカゼのような症状ではじまります。続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続的にせき込むようになります。

せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常出ません。

乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり(チアノーゼ)、けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こします。乳児では命を落とすこともあります。

#### (ウ) 破傷風 (Tetanus)

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が傷口からヒトへ感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、治療が遅れると死亡することもあります。患者の半数は本人や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力(免疫)をもっていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

#### (エ) ポリオ (Polio)

ポリオは「小児まひ」と呼ばれ、日本でも1960年代前半までは流行を繰り返していましたが、予防接種の効果で1980年を最後に野生株ポリオウイルスによる麻痺患者の発生はなくなり、2000年には世界保健機構(WHO)は日本を含む西太平洋地域のポリオ根絶を宣言しました。しかし現在でも野生株ポリオウイルスによるポリオの発生が見られる国があり、その国々から飛び火したケースで、一旦は野生株ポリオウイルスによる発症者の報告がなくなった国々において、再びポリオが発生し他国へ拡大するという事態も生じています。そのため日本に野生株ポリオウイルスが入ってくる可能性も考慮しておく必要があります。

口から入ったポリオウイルスは咽頭や小腸の細胞で増殖します。小腸の細胞ではウイルスは4~35日間(平均7~14日間)増殖すると言われています。増殖したウイルスは便中に排泄され、再びヒトの口に入り抵抗力(免疫)を持っていないヒトの腸内で増殖し、ヒトからヒトへ感染します。ポリオウイルスに感染してもほとんどの場合は症状がでず、一生抵抗力(終生免疫)が得られます。症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染が広まり、麻痺を起こすことがあります。ポリオウイルスに感染すると100人中5~10人はかぜ様の症状があり、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれます。また、感染した人の中で、約1,000~2,000人に1人の割合で手足の麻痺を起こします。一部の人にはその麻痺が永久に残ります。麻痺症状が進行し、呼吸困難により死亡することもあります。

#### ●飛沫感染(ひまつかんせん)

ウイルスや細菌がせきやくしゃみなどにより、細かい唾液や気道分泌物につつまれて空気中へ飛びだし、約1mの範囲で人に感染させることです。